

来週の「売り物記事」はこれ



2020年2月21日号 毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝部

東京パラリンピックまで半年

特集面など 25日(火)

東京パラリンピックは25日で開幕まで半年。史上最多の参加が見込まれる日本選手の代表争いも本格化を迎えます。2004年のアテネ・パラリンピックに日本選手史上最年少の13歳で出場した競泳男子の山田拓朗選手(運動機能障害)は、5大会連続出場が懸かります。障害の程度に応じたクラス分けの見直しにより出場できる種目数は減りましたが、前回のリオデジャネイロ大会での銅メダルに続くメダル獲得を目指す山田選手の決意を伝えます。



ハンセン病施設を撮る

夕刊特集ワイド 26日(水)



アマチュア写真家としても知られる俳優の石井正則さん(46)の写真展が29日から、国立ハンセン病資料館(東京都東村山市)で始まります。写真展には、石井さんが3年がかりで全国の国立ハンセン病療養所を巡って撮影した作品が展示されます。「自分自身がフィルムになった感じがした」という石井さんはなぜ、ハンセン病療養所にこだわり、撮り続けたのでしょうか。石井さんにインタビューします。

頻尿や急な尿意 薬使わず治すには

くらしナビ面 26日(水)

トイレに行く回数が多くなったり、急にトイレに行きたくなったりする症状はありませんか。そんな時は、加齢や女性ホルモンの低下などに伴う過活動膀胱を疑った方がいいかもしれません。骨盤底全体(フランス語で「ペリネ」)に関係するこうしたトラブルには薬による治療が代表的ですが、副作用が課題になっています。女性のカラダノート「ペリネケア」番外編として、まだ研究段階ですが、薬を使わずに症状を改善する新しい治療法を紹介します。

本はともだち

親子の読書面 26日(水)

第65回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書「サイド・トラック 走るのニガテなぼくのランニング日記」で毎日新聞社賞を受賞した兵庫県の男子中学生は、表彰式で米国から来日した著者と対面しました。発達障害のある主人公の姿に自分を重ね勇気づけられ、友達に自分自身の発達障害を明かしたといい、著者に「この本を書いてくれてありがとう」と伝えます。

福島第1原発 廃炉の現状

科学面 27日(木)

東京電力福島第1原発の廃炉作業は少しずつ進んでいますが、水素爆発に伴うがれきや、汚染水の処理で生じる吸着材など、放射性廃棄物の処分方法は定まっていません。核燃料などが溶け落ちた「燃料デブリ」を1~3号機からどのように取り出すのか模索も続いています。2011年3月の原発事故から間もなく9年になる中、廃炉の課題を伝えます。

ペット医療訴訟

くらしナビ面 27日(木)



ペット医療を巡るトラブルが目立っています。家族同然に過ごす飼い主側の意識の変化が背景にありそうです。ただ、動物病院を相手取って裁判を起こしても、「命の値段」は20万~40万円なのが現実です。それでも、家族を失った悔しさを分かっているのに適切な治療をせずに愛犬のノーフォークテリアを死なせたとして病院を訴えた夫妻に話を聞きます。

論点 エコーチェンバー現象

オピニオン面 28日(金)

「エコーチェンバー現象」が、社会を分断させる“真犯人”として注目を浴びています。これは、似た考えを持つ者同士が共感し合ううちに、意見や思想がより過激で極端になり、多様な考え方を受け入れられなくなる現象です。SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の隆盛が、拍車をかけているとの指摘もあります。3人の識者と処方箋を探ります。

「自分らしさ」追い求めて

Sストーリー、一面 3月1日(日)



幼少期から自身の「女性らしさ」に違和感を抱きながら「男性」であることを抑えてきた岩井紀穂(49)が昨秋、乳房を切除する手術を受けました。手術にはリスクが伴い、費用も高額なため迷い続けてきましたが、保険が適用されることになり、決断したのです。乳房の切除前、岩井さんは涙を浮かべました。「自分らしさ」を追い求めてきた半生を紹介します。

※ 都合によっては掲載日や内容を変更することがあります。